

1 実施概要

- 場所 : サンパウロ(サンパウロ大学法学部講堂)
- 日時 : 5月4日(土)
- タイトル : 中南米と共に拓く「人間の尊厳」への道のり



2 位置づけと狙い

- 日本の総理大臣として10年ぶりの対中南米政策スピーチ(前回は2014年安倍総理(当時))
- 国際社会の分断・対立が進む中、日本と、①長い交流の歴史と深い人的繋がりを有し、②同様の価値と原則を標榜するパートナーであるとともに、③グローバル課題の解決に積極的に貢献できる多大なるポテンシャルを有する中南米に対して、日本ならではの関わり方を強調しつつ、これまでの政策・実績を踏まえ、日本と中南米が今後10年間、世界を協調へ導くために共に拓くべき「道のり」を示した。

3 キーメッセージ

以下の内容を、「道のり」というキーワードに集約しながら発信。

- 日本に国際社会への「道のり」を示してくれた友人である中南米の国々と、「人間の尊厳」が守られる世界の実現に向けて、日本と中南米、ひいては日本と世界が取り組むべき3つの方向性を明確化。

1. 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の確保

- ✓ グローバル・ガバナンス改革、海洋、サイバー、宇宙、地域の平和と安定(ハイチ、女性、移民、治安)

2. 環境、気候変動など人類共通の課題の克服

- ✓ 環境・気候変動(日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)、アマゾン基金への支援、カリブ地域等小島嶼国への協力)、脱炭素化に向けた協力

3. 誰をも犠牲にせず、世界の全ての人々が共有できる繁栄の追求

- ✓ 地域社会と連動した真に持続可能な成長の実現(バリューチェーン、経済協力等)
- その上で、到達すべき目標は共通だが、それに至る「道のり」は各国によって異なり得る。「道のり」の多様性を前向きに受け入れ、尊重し合い、学び合い、対話を通じて、より良い未来を共創するための協力を追求。
- これら3つの共通目標の実現に不可欠なのは、人と人との繋がりを。日系人を含む次世代の絆こそ、日・中南米の新たなパートナーシップの「道のり」を拓く鍵。中南米を対象に今後3年間で1000名規模の交流事業を実施。